

看護倫理

見ているものが違うから起こること

著：吉田みつ子／医学書院

定価：2,310 円(本体 2,200 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■ますます過密になる看護現場にあって、「患者中心という理念が空回り」してはいないか、「同じ出来事や言葉の受け止め方が大きく異なることに気付いてほしい」とは、本書の編集協力者である川島みどり氏の言葉。病棟で起こりがちな 16 の場面を、看護者と患者、それぞれの受け止め方で捉え直し、「あなたには何が見えていますか」「見えていませんか」と問いかける。

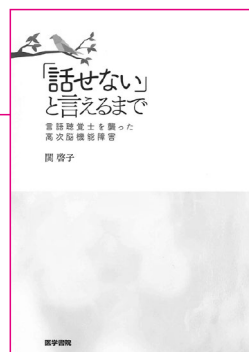
「話せない」と言えるまで

言語聴覚士を襲った高次脳機能障害

著：関啓子／医学書院

定価：2,625 円(本体 2,500 円＋税)／TEL：03-3817-5657

■30 年のキャリアをもつ高次脳機能障害の専門家(著者)が、脳梗塞で倒れた。本書は、その日から 3 年近くの治療と回復の日々を、著者自身が学術的に分析、解説する貴重な記録である(医学書院 HP にて動画等の資料参照可)。同時に、高齢者専用賃貸住宅への入居、日常生活での工夫、復職から退職、そして開業準備へと生活上の変化を報告する。リハビリテーション関係者、医療職者の学びに大きく資する 1 冊。



認知症を生きる人たちから見た

地域包括ケア

編著：「京都式認知症ケアを考えるつどい」実行委員会／クリエイツかもがわ

定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税)／TEL：075-661-5741

■2012 年 2 月に京都で開催された「京都式認知症ケアを考えるつどい」の全記録。認知症の当事者、家族、多職種からなる専門職の貴重な報告を受け、使い勝手のよい医療や制度のかたちを考える「つどい」の過程と、その熱気を伝える。その活動から産み出された「京都式認知症ケアの定義十箇条」は、高齢社会のグランドデザイン「地域包括ケア」のあり方に、そして私たちの明日に重要な一石を投じる。

認知症の本人が語るということ

扉を開く人 クリスティーン・ブライデン

監修：永田久美子・編著：NPO 法人認知症当事者の会／クリエイツかもがわ

定価：2,100 円(本体 2,000 円＋税)／TEL：075-661-5741

■本人が語る認知症の世界により、われわれに驚きを与え、認知症の見方への変更を迫ったクリスティーン・ブライデン。「認知症新時代」の扉を開けた彼女が、講演で語った言葉から、その喪失の深さと重さ、そして「希望への強い意志」(「おわりに」より)を伝える。また、日本国内の認知症当事者の言葉を通して、認知症の本質に迫り、私たちはどう生き、どう支え合ってゆくのかを考える。

